

## 織田信長の「天下」と仏教

文学部歴史学科  
川端 泰幸

### 1. 織田信長のイメージ

- ・英雄？ 破天荒？ 異端児？ 残酷？ 革命を担った人？
- ・美濃・尾張平定、足利義昭を将軍に、将軍との決別、馬揃、延暦寺焼き打ち、浅井・朝倉氏の滅亡、一向一揆との戦い etc

### 2. 信長はどうしてあの信長になったのか

- ・出来事や人と会うことで変わっていくのが人間→信長も同じ
- ・歴史学では出来事や人間関係と人との関係を追究

### 3. 一向一揆

- ・本願寺（浄土真宗）……当時は大坂（現大坂城）
- ・鎌倉時代に親鸞が教えをひろめ、本願寺第八代蓮如の時代に爆発的にひろまる。
- ・元亀元年（1570）織田信長と三好三人衆が戦っていた大坂で本願寺が蜂起。以降休戦をさみつつ、天正8年（1580）まで
- ・なぜこれほど長く？→本願寺教団（門徒団）のひろがりネットワーク

### 4. 信長の「天下」意識

- ・永禄10年（1567）から「天下布武」印。  
「今度は国々本意に属す由、尤も武勇の長上、天道の感応、古今無双の名将、いよいよ勝ちに乗ぜらるべきの口勿論たり、」（永禄11=1568年11月9日付 正親町天皇綸旨「経元卿御教書案」、『信長文書』一二六頁）  
→美濃稲葉山城平定→天皇より「武勇」によって「天道の感応」を得た「古今無双の名将」と評価される。

### 5. 一向一揆の思想と信長

- ・元亀元年（1570）6月28日細川藤孝に宛てた手紙「（姉川の戦いで）首の事は更校量を知らず候間、注すに及ばず候、野も畠も死骸ばかりに候、誠に天下のため大慶これに過ぎず候」→天下のためには殺害も正当な手段。
- ・さらに一向一揆などとの戦いの中で「根切」「撫切」（根絶する）という表現が出てくる。
- ・一向一揆の思想＝平等性・救済⇔信長の天下

### 6. 結論

- ・信長は「天下」統一を構想するが、それは「信長一人」が支配する「天下」。信長に従う者のみが生きられる⇔一向一揆＝誰に限定することのない天下。
- ・大谷大学の歴史学→図書館などに所蔵される豊富な文献（史料）をていねいに読み解き、信長のような有名人から名もない民衆に至るまで、その人びとがどう生きたのか、何を考えていたのか、どうしてそのような時代が形成されたのかといったことに迫る。
- ・過去を学び・現在を生き・未来に活かす学問